

Continue

2022 AUTUMN

vol. 25

YUTACOLOGY'S communication press

特集

BCPはじめました

—企業に求められる事業継続計画—

【快適空間創造】

【環境改善の見える化】

【SDGsでつながる】



B C P
Business Continuity Plan



事業継続計画策定にあたり



今まさに足元の新型コロナウイルスの蔓延や、南海トラフ地震の可能性を考えると、企業にとってBCP策定は喫緊の課題です。しかし当社に当てはめ考えますと、BCPを策定し運用可能な状態として準備されているかと言えば、まだやっと準備の緒に就いたところであるというのが正直なところではあります。

私は、1995年の阪神淡路大震災を経験しております。当時、会社の営業復旧作業を進めるにあたり、その基盤としてあったのは、コミュニティー、地域ネットワークでの助け合いでした。

時を経て現在は社会のシステムが変わり、復旧においてはより高度な技術的あるいは専門的な知識が必要となりました。さらに、復旧作業を前提とした日頃からの仕事の進め方、仕組みが、災害が起こる前に事前に導入されていることが必須となっています。

企業がまず優先すべきは、防災でリスクを最小限にした上で、お客様、社員従業員の安全を確保することです。BCPの策定にあたり最大のポイントは「BCM」、つまりBCPを実際に運用するための体制づくりと、その浸透にこそあると考えます。

9月1日、当社本社社屋で、南海トラフ地震（震度6弱～7）を想定した防災訓練を行いました。約10分の短い訓練でしたが、後のフィードバックにより、参加した社員からは課題や改善事項がいくつも出され、これらをBCP、BCMに活かしていく予定です。

コロナ禍において、当社はビルメンテナンス業として、オフィスの緊急除菌作業や安全なスペース創り等、対応に加えてさまざまなご提案をしております。今後はさらに、自社のBCP、BCM策定プロセスをモデルに、お客様の事業継続計画に役立つ情報のご提供や策定サポート等、新たなご提案を視野に入れております。

引き続きご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

代表取締役 酒井秀京

BCP

事業継続計画。「Business Continuity Plan」の頭文字を取っている。企業が緊急事態時の被害を最小限に抑え、事業が継続できるよう対策や方法をまとめた計画。

BCM

事業継続マネジメント。BCPの改善・運用までを総合的に考えるもので、非常事態への対策手段の運用プロセスを設計するために必要となるアプローチ。



ユタコロジーは BCP(事業継続計画) はじめました



自然災害やテロ攻撃など、突然発生する緊急事態に遭遇したとき、企業は事業資産の損害を最小限にとどめ、かつ事業の継続と早期復旧が求められます。当社はBCP（事業継続計画）を準備することで有事への対策とするとともに、お客様や自社社員の信頼と安心につながるよう、この5月より策定をスタート。2023年3月完成を目指しています。

策定方法

- ・南海トラフ地震（震度6弱～7）を想定。
- ・平日9時30分、勤務中のスタッフが最も多く、影響が最大と考えられる時間帯を設定。
- ・想定ケースにおける5W2Hの明確化。
- ・自社内だけでなく、お客様のお役に立てる業務についても段階的に対策を決定。

会議およびアクション報告

BCP 会議、5S 委員会 各3回の会議およびアクションを行いました。

1. 会議およびアクション

- ・東日本大震災を参考に、想定災害規模、想定被災状況を決定。
- ・ヒト、モノ、カネ、情報の現状把握と、被災後の時間地区で対応すべきことを整理。
- ・有事の際の連絡体制、安否確認実施方法を決定。
- ・地震発生時を想定した防災・避難訓練を実施。
(8/18 5S 委員会にてテスト訓練 9/1 防災・避難訓練を実施)



▲9月1日、震度6強の地震を想定し防災避難訓練を実施しました。

2. 気づき

- ・現在の情報管理体制・能力と、本来あるべき姿との差を実感できた。
- ・現状把握は本社のみにとどまり、それ以外についての対策が見えないことがわかった。
(お客様との連携の必要性を痛感した)
- ・何気なく運用している業務フローの意味、意義を再認識することができた。
- ・有事以外の、日常の安全体制構築につながった。

3. 今後

- ・防災、災害時の被害を最小限にするための体制・環境を構築する。
 - ・その上でBCPを完成。誰が何をすべきかを明確にする。
- ※災害後最大2週間以内で、通常業務が可能な体制を構築。

『私たち、ユタコロジー業務部です』

プロにおまかせを！

見えない部分、できない場所こそ



祖父江和貴（グループ長） 伊藤智英 山本英次郎 阿知波弘幸
高坂雅徳 永田圭司（部長）

働く人、住まう人が安全に快適に過ごすために、ビル、建物管理では、日常清掃では落としきれない汚れを落とす定期清掃によるメンテナンスが欠かせません。迅速な対応力で信頼を築くユタコロジー業務部。ご依頼が増える年末に向けて、お客様へのご提案、業務への心がけなど話し合いました。

永田 今日はこの座談会が、日頃の業務部の仕事について、また我々の強みを顧客の皆様様に改めて知っていただく機会になればと思います。

まずこれからの季節でご依頼いただく業務のひとつに、除草がありますね。

伊藤 梅雨が過ぎた頃から、秋にかけて多いです。

祖父江 年末にかけては、大掃除の意味合いでスポット清掃のご依頼が増えます。

また夏から秋に多いゲリラ豪雨や台風で駐車場に水が入った場合など、緊急対応を行うこともあります。

永田 雪の緊急対応もありますね。

祖父江 そうですね。立体駐車場のスロープや出入り口が凍ると事故やケガにつながる可能性があります。



大雨や雪が降った後の対応のほか、降り始める前にできる対策をご提案することも必要だと思っています。

枯葉の季節は害虫に注意

伊藤 除草など屋外の作業をしていると、セアカコケグモを見つけることがあります。側溝に溜まった枯葉の中に多いです。

祖父江 グレーチング（側溝の蓋）の裏側も多いですね。毒を持っていて刺すので危険です。これからの時は枯葉が多くなるので、お客様にも気を付けていただき、

必要であれば害虫生息調査を行います。

永田 アシナガバチも多いでしょう。

伊藤 サッシ窓の角とか、雨を避ける場所に巣を作りますね。

祖父江 アシナガバチの巣は発見時に駆除しますが、スズメバチは特殊で危険ですので、連携する専門業者で駆除を行います。

お客様への提案は現場での気づきから

永田 高坂君は入社3年目。最近リーダーを担う現場も出てきました。リーダーになると仕事の見方はどう変わりましたか。



高坂 やはり意識が変わります。まず1日の流れを予測して、どの作業を何時までに行うかを組み立て、メンバーと話し合いながら考えて動くようになりました。

祖父江 全体を見て考えた上で動くことは大切です。スポットで入る特別清掃の中には慣れない現場もあるので、その分事前準備や段取りが重要です。

山本さんは、段取りや片付けをよく気づいて率先してやってくれるので助かってますし、高坂君はその様子を見て手伝ってくれるのでありがたいです。

永田 準備は大切です。現場の下見はしても、予想通りに汚れが落ちるかはやってみないと分からないこともある。リーダーは常に予測と決断の連続で、不測の事態ではどうリカバリーするか、次の手を打っていくことが求められますから。

祖父江 お客様のニーズにも、必ず期間内で終了してほしいとおっしゃる場合と、期間が延長しても綺麗な仕上がりをお求めの場合と、両方ありますね。

阿知波 コスト面のニーズもあります。現場では、「ここは人が良く通る場所だ」とか、「ここはそうでもないな」などが良くわかります。なので、人が多く行き交う場所は清掃にコストをかけていただき、逆にそうでない場所はコストを抑えるご提案も出来ればと思います。



永田 業務部はみんな職人気質で、時間内でのベストな仕上がりにこだわりがありますね。

伊藤さんはキャリアが長い分いろいろな経験があり、情報を持っている。その経験と情報の記録を、業務部全員が共有できる仕組みを作りたいですね。

祖父江さんはグループ長として引っ張ってくれているし、阿知波さんは現場の担当の方とコミュニケーションが取れているのでお客様から安心していただける。お互いをカバーし合える点も業務部全体の強みだと思いますね。

強い責任感でやり切るチーム力

祖父江 私たちの強みで言えば、小回りが利く点も挙げられると思います。自分が休みの日であっても、緊急対応に駆けつける責任感が全員にありますね。

高坂 私もチーム力だと思います。そして、しっかり時間内、期間内でやり切る力。

祖父江 やり遂げることプラス、付加価値の提供でしょうか。

山本 それでお客様から感謝の言葉をいただくと、うれしいですよ。

伊藤 花壇の除草作業で最近こんなことがありました。木の枝が伸び過ぎて歩行者に当たる危険があるとお客様から相談され、本社へ確認してから切って差し上げました。お客様からは大変感謝されました。

阿知波 私は、ユタコロジーの歴史が強みだと思います。お客様から信頼をいただき、自分たちの強みに活かしてお客様にご提供したいと思っていますね。

永田 やはりユタコロジー業務部は一人ひとりがそれぞれの視点で、責任感とプライドを持って仕事をしていると改めて感じる事ができました。

これからも力を合わせて、我々の強みと付加価値をご提供していきましょう。





8月22日 ユタコロジー 安全宣言の日を実施



2000年8月22日、高所作業（3階）からの転落事故が発生。二度と重大事故を起こさないために、当社は毎年8月22日を「安全宣言の日」とし、安全啓発に努めています。今年にはコロナ禍により人数を制限し、当社社員18名、主要協力会社より11名、計29名が集い、安全に関する情報共有を実施。業務における安全第一を改めて確認しました。

ユタコロジー 安全宣言の日 於：サイプレスガーデンホテル(中区金山)

代表取締役 酒井秀京

「安全」を考えるときに、安全対策と効率性・経済性・実現性の中で優先順位がある。しかしながら、安全第一とするには万全の対策がなされなければならない。できる限りの中でベターではなく、ベストな選択を行うようお願いします。



顧問 西村文宏

事故が起きた際、事故を起こした本人は裁判の被告人のような立場に置かれ、往々にして原則からの逸脱、ルール違反、気の緩みに原因を求めがちである。孤独感や孤立感はさらなる重大事故や自損行為へつながりかねない。再発防止に前向きな姿勢を持ち、また仲間として温かく、一体感が持てるような心がけをお願いします。



協力会社より、自己紹介と安全事例紹介

安全標語、ヒヤリ・ハット事例表彰

安全標語受賞者8名 ヒヤリ・ハット事例受賞者9名を表彰。(新型コロナ再流行を鑑み授賞式は中止) 各最優秀賞は当社代表作品として社外コンテストへ応募。

社長賞表彰

JERA川越火力発電所での、クリーンクルーによる重大災害未然防止行動の表彰を報告。(授賞式は中止)

各部門長講話

業務部 部長 永田圭司
ISO14001、なごやSDGsグリーンパートナーズ優秀賞受賞。愛知CO2削減マニフェスト2030、SBT取得等取り組み紹介。剥離廃液処理と石綿含有建材の調査に関する制度確認。

総務部 部長 久米明日樹
5S委員会の組織と活動内容報告。作業マニュアルの見直しとBCP策定中間報告。

ファシリティーマネジメント事業部 部長 市川雄一
直近1年の事故・クレーム報告。昨年の重大事故(日常清掃クルーが階段から転落し、頭蓋骨骨折・クモ膜下出血のケガを負った事故)の発生原因と対策の説明。

CSV推進室 室長 栗原 武
報連相確の徹底。今後のより安全な協力体制構築のために。

梶山女学園大×ユタコロジー コラボカレンダー制作プロジェクト進行中

梶山女学園大学とのコラボレーションプロジェクトによる卓上カレンダー制作が進行しています。

現代マネジメント学部 東 朱実教授の授業を受ける3年生の皆さんが、「自身がいきいきと輝き、そして周囲を明るく照らす女性」をイメージし、取材対象者をリストアップ。自分らしさを大切に活躍する女性たちの姿からさまざまな気づきを得、原稿にまとめています。

12人の女性たちの“輝きStory”をまとめる花束のようなカレンダー。初冬に完成し、顧客の皆様へお届けする予定です。



▲ゼミでは取材工程やカレンダーデザインに関し、活発に意見が交わされています。

ユニフォームをリサイクル

5S活動とSDGsの観点から、自社ユニフォームのリサイクルを半年ごとに行うことが決定しました。処分の対象でストックされていた旧社名時のユニフォームについても、一斉にリサイクルに出すことができました。ユニフォームリサイクルを定例活動とする中で、リサイクルによってユニフォームがどう資源として循環するのかも、今後取材しご報告していきたいと思えます。

【今回のリサイクル品 内訳】総重量34.4kg

	帽子	シャツ	エプロン	ポロシャツ	スポン	冬用ブルゾン	ジャンパー
枚数	2	10	20	30	36	18	1



▲こんなにリサイクルできました！

ペットボトルリユース 半年間で2,066本

今年に入り、新型コロナウイルス感染症対策として、弊社除菌剤を使用しお客様ご自身で除菌を実施されるケースが増えました。その結果多くのペットボトルのリユースとなり、2022年1月から6月までの半年間で、リユース数は2,066本を数えました。



ISOサーベイランスを実施しました

7月11日、12日の2日間にわたり、ISOサーベイランス(定期審査)が実施されました。

当社はISO14001を取得しており、認証機関の審査員の方々に年に1度、PDCAの進捗確認のため来社いただいています。

ISO14001は、環境マネジメントシステムに関する国際規格。社会経済的ニーズとバランスをとりながら、環境を保護し、変化する環境状態に対応するための組織の枠組みを示す規格です。



認定機関から審査報告書が発行されました。



はじめまして！
新しくユタコロジーの一員になりました。
お客様の快適空間の創造に努めてまいります。
お気軽にお声がけください！

質問はコレ！

- ①出身と住まい
- ②誕生日
- ③いまコレに夢中！
- ④私の強み
- ⑤好きな言葉
- ⑥“チームユタコロジー”のメンバーになって一言

CSV推進室

遠山 璃子



- ①名古屋市出身・在住
- ②8月23日
- ③ダーツ、ボーリング
冬はスノボ
- ④負けず嫌いで努力できる
ところ
- ⑤「虹は真下にいる人には
見えない」
- ⑥一日でも早くお役に立
てるよう頑張ります!!

体を動かすことが好き！
スポーツが得意です！



Riko Tooyama

JERA川越

山下 浩



- ①名古屋生まれ三重県育ち
桑名市在住
- ②10月23日
- ③ゴルフ
- ④誠実・粘り
- ⑤「戦略戦術」
- ⑥チームワークにより、お客
様へのより良いサービス
提供と、社員の幸せ作り

ゴルフレッスン中！
上達するぞ～！



Hiroshi Yamashita

総務部

平岩 美里



- ①安城市出身 名古屋市
在住
- ②9月1日
- ③キャンプで焚火
- ④“真面目さ”と“粘り強さ”
です
- ⑤「チャンスをつかむ」
- ⑥“日々成長”をモットーに
努力を重ね、皆様に信
頼をいただけるよう精
進してまいります



キャンプで心と身体を
リフレッシュしてます！
ダンスも大好き！



Misato Hiraiwa

TOPIC

クリーンクルー赤尾さんの
手づくりカート活躍



当社クリーンクルーとして日本ガイシ株式会社様で就業中の赤尾正博さんが、清掃道具を運搬するためのカートを自作。趣味のDIYのセンスを活かしつつお客様環境に適した器具で、市販カートよりも使い勝手が良い上にコストも抑えられています。お客様の快適な環境づくりのため、安全でスムーズな作業ができるよう工夫や改善を心掛ける赤尾さん。頼もしい縁の下の力持ちです。



ユタコロジー株式会社

〒466-0841 名古屋市昭和区広路本町4-48
tel 052-851-0077
e-mail info@yutacology.co.jp
URL https://yutacology.co.jp



なごやSDGs
グリーンパートナーズ

認定優良エコ事業所



DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

この印刷製品は、環境に配慮した
資料と工場で製造されています。

ミックス
紙 | 責任ある森林
管理を支えています
FSC
www.fsc.org
FSC® C166965